

4月になりました。

4月1日エイプリルフールです。

子どもの頃ちょっとお転婆でいたすらっ子の私

毎年の様に作り話を考えて、家族や友人に話していました。

でも、つたない表現力、説得力の無い筋立て、あまりにも現実離れした設定などもあり

「それ嘘でしょ」とすぐに見破られました。でも友人も父も妹もケラケラ笑ってくれました。

がしかし、なぜか？母だけそんなものにも聞き入ってくるのであります。

ネタが終わり決め台詞「嘘だよー！」と決叫んだ途端

「この子は本当に・・・バカなんだから」といつもの一喝。笑うどころか強くお叱りを受ける事となり、そんな事や大人化したこともあり・・・エイプリルフールはスルーすることとなりました

作り話・物語・フィクション・

これらは、創造者の「想像力だけ」色々な体験や状況をつくりだすことができます。

だから私も、優秀な頭脳と体力を持ち、空を飛ぶことさえもできたのであります。

怪獣や宇宙人 お化けが出てきても大丈夫。

私が危うくなったら、ヒーローや救世主が出てきて 私・・・人間が勝利します。

今・・・私はフィクションの中にいるような気がしてなりません。

「二か月前の日常と今」が凄く速さで乖離され、今のこの現実についていくのが精いっぱい。

受け止められない事象が突然と現れ、「えー？どうなっちゃうの？」展開が読めません

これまでの日常常識と現実の状況とのギャップにも不安がつのります。

「これは私の夢・想像 作り話」と思いたくなくなってしまいうらい「やばい現実」

「フィクションのような危機」が、今この瞬間に・・・私だけでなく・

・・・世界中の人に降りかかっています。

「そっちは危ないよ」「ほらソコ気をつけて」と例え自分では見えなくても、誰かが声をかけ、

示してくれさえすれば、何とかできるのかもしれないのに、「誰もそれが見えない」絶望感

「何か出来るのでは？」と思いつつ、成すすべ無く見守る事やそれさえも許されない」喪失感

「見えない危機感・姿を現さない恐怖」はホラー映画代表作「13日の金曜日」を見た時の

あの衝撃・あの恐怖感よりも今、この瞬間の「現実の日本・世界の現状」がよっぽど怖い。

展開の読めないものすごい脚本。創造者はだれ？ 私たちをどうするの？

「恐怖映画も嘘も作り話も・・・あまり設定を広げすぎると收拾がつかなくなりますよ！」

「時間もかけすぎると時間軸がぶれて、矛盾が生じて反響効果があがりませんよ」

「おーい聞いてますか？」もうそろそろヒーローが出てきて良いころです。

密かに戦っている人にヒーローは声をかけます。最後に敵が来て・あわやだめか？と・

思うその時世界中が一つとなってヒーローと共に新たなアイテムを持ち人類の勝利となります。

2020年4月1日エイプリルフールなのですが、HappyE n dのエンディングにむけ

そう・・・現実に早く「完・AND・FIN」としていきましょう

そんな事を思う4月です。

